

まち地域のこえ広場 No.8

町への思い、地域への思い、議会への思いを届けます。

子育てニーズに応える体制づくりを！



NPOはらから代表
川崎 健太郎さん
(39歳、横浜在住)

黒潮町は、少子高齢化や人口減少といった課題に直面しています。

それに加え、南海トラフ地震による被害想定により、防災の取り組みが進んでいるとはいえ、この町に住むことに不安を抱く方も多いでしょう。このまま人口が減少し続けると、地域の活力はますます失われてしまいます。そのため、黒潮町に住んでもらうためには、特に子どもや子育て世代に魅力を感じて頂くことが重要だと思っています。

子ども・子育て支援に力を入れ、共働き家庭でも安心して子育てができる環境を整える必要があります。

また、経済的支援、休日に親子で過ごせる居場所の提供、子育て世帯に向けた分かりやすい情報発信など、多様な若者世代のニーズに応える体制を築いていくことが求められていると思います。

これらの取り組みを積極的に推進することで、「住みたい」と思える黒潮町を実現し、地域の未来を切り拓いていくことができるのではないのでしょうか。

～私が黒潮町に移住したわけ～



増田 哲也さん
(55歳、入野本村在住)

昨年4月末に東京から移住。現在は高校魅力化コーディネーターとして大方高校に勤務しています増田(まつさん)です。

黒潮町への移住は約3年前の移住フェアがきっかけで、数ある市町村ブースの中で「シャツアート展の写真に目を奪われ、『な』からこそ『ある』まち』という砂浜美術館のコンセプトに惚れ込み、移住しました。

4kmに亘る美しい砂浜、入野松原、満天の星空、シロチドリや、南国ムードたっぷりのイソヒヨドリやさえずり、ホエールウォッチング、カツオの薫焼き、フォトジェニックたっぷりの無人駅、土佐西南大規模公園、あちらこちらで行われている多種多様なイベント…。黒潮町の魅力は、ひと言では語りつくせません。

しかし何といっても、ここで生きている『人』が一番の魅力。生きるチカラに満ち溢れた人たち。すべてがリスペクトです。

これからどんな出会いがあるのか楽しみしかありません。55歳なのでGOGOいきます!!(笑)

編集後記

令和5年度当初から取り組んだ裏表紙の「まちのこえ広場」が、お陰様で今回8回目を迎えることが出来ました。

この記事編集していると、以前、平成25年度から6年間ほど取り組んだ「住民の声」シリーズを思い出します。

その当時、編集委員の一員として、地域に向いて住民の生の声を聴くと共に、地域の状況を肌で感じさせて頂いたことは、議員活動にも大いにプラスになったと感じています。

今後も、現場に向き、住民の生の声を聴く機会を多く持たなければと思う次第です。

(宮川 徳光)

議会広報常任委員会

委員長	宮川 徳光
副委員長	小松 孝年
委員	奥本 哲也
同	濱村 美香
同	水野 佐知
同	山本 牧夫

黒潮町 議会だより・議事録は、黒潮町ホームページよりご覧になれます。

<http://www.town.kuroshio.lg.jp/>→黒潮町の紹介→議会→議会だより→バックナンバー

■発行人 高知県黒潮町議会
■編集 黒潮町議会広報常任委員会
■住所 高知県幡多郡黒潮町入野 5893

■発行日 令和7年5月1日
TEL(0880)43-2111(代)・(0880)43-2831(直)